NIIGATA UNIVERSITY

採択校からの成果報告　新潟大学

知識集約型社会を支える
人材育成事業（DP）
Human Resource Development Project
for Supporting Knowledge-Based Society

NICE Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program

知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）
教学マネジメントセミナー2024
2024年12月9日（月）15:10-15:20

新潟大学 教育基盤機構 教学マネジメント部門
准教授　上畠　洋佑（うえはた　ようすけ）
yuehata@ge.niigata-u.ac.jp

本報告資料は福島治（新潟大学）・淺賀岳彦（新潟大学）が大学教育学会2024年度課題研究集会開催校シンポジウムで報告した資料をベースに、本報告者が修正・追記等して作成したものである。

報告内容

1. 全学分野横断創生 (NICE) プログラムの概要

2. 取り組みの成果

3. 今後の展望

概要

新潟大学では2006年度からメジャー・マイナー制を導入
ますます複雑化・多様化する社会課題に対して、広く複眼的な視野で問題を解決できる人材育成の強化が急務であるという認識

→より発展させたメジャー・マイナー制を構築し、その学修を支援・促進することを目的に
　2021年度から**NICEプログラム**を開始

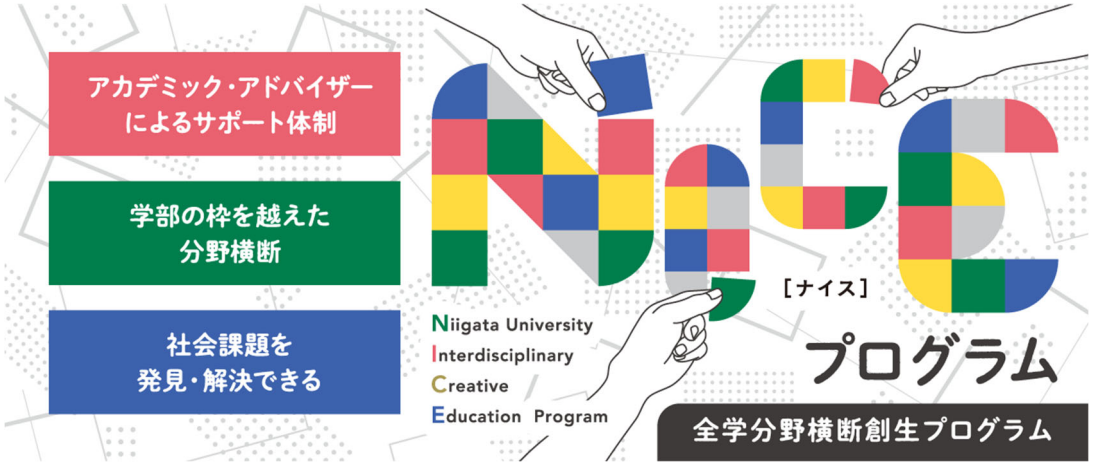
特徴：
アカデミック・アドバイザーによる支援、スチューデント・アシスタント（SA）によるピアサポート
マイナーの学修の入門科目「分野横断デザイン」と総括科目「分野横断リフレクション」

4年間のNICEプログラムの取り組みに関して、特に学修支援かかわる点を中心に、成果を報告

全学分野横断創生（NICE）プログラムの概要

NICEプログラム概要

新潟大学 全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）
Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program



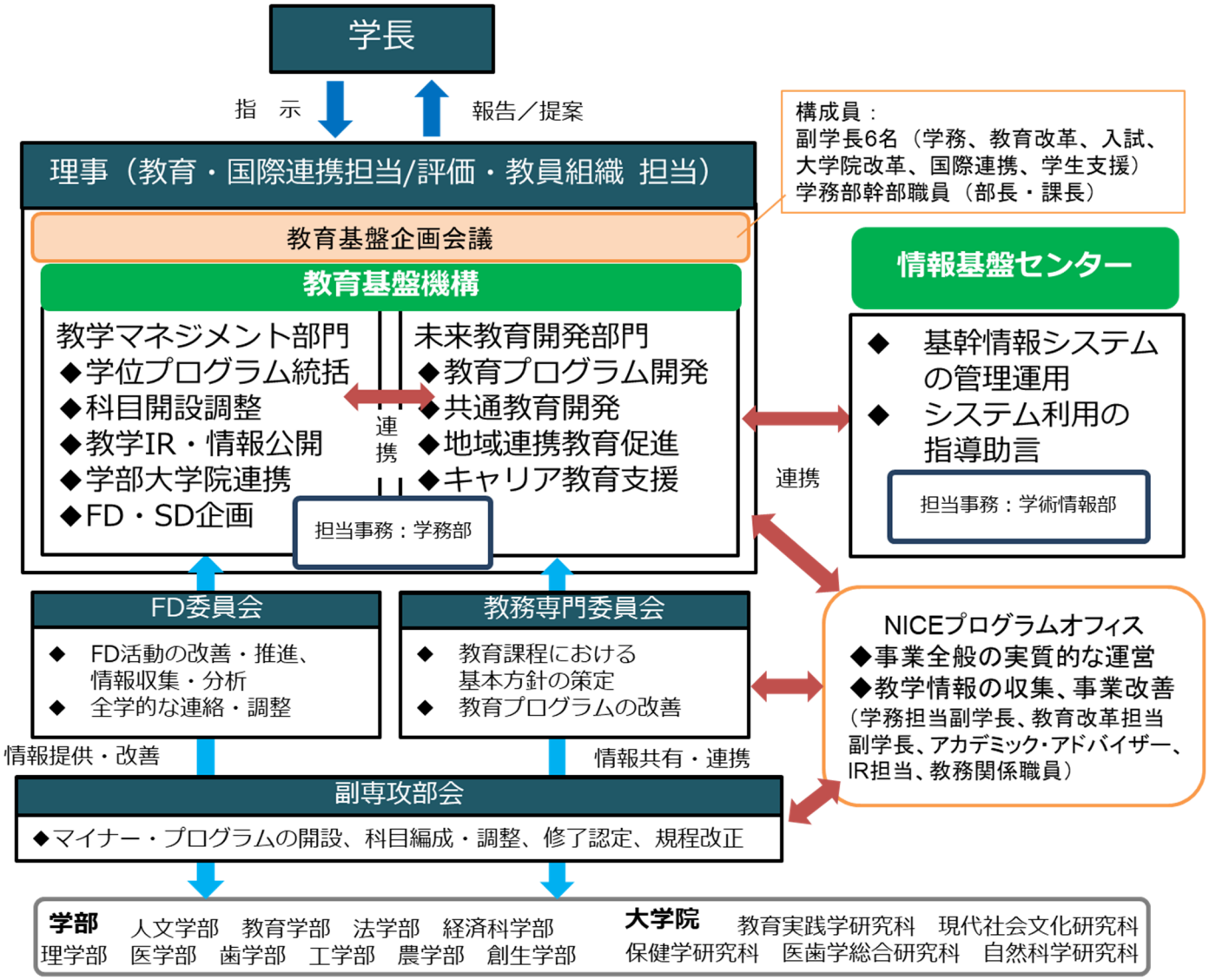
- 令和3 (2021) 年度：メジャー・マイナー制の導入

  メジャー：所属学部の主専攻プログラムにおける専門教育学修

  マイナー：メジャー以外の分野の体系的学修
- 複雑化・多様化する社会課題に複眼的視野でアプローチできる人材の育成
- **文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」（DP事業）**

  「メニューI：文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム」採択（令和2~6年度）

NICEプログラム概要：事業の実施運営体制



マイナーの種類と履修の流れ

- マイナーは大きく3つのタイプに分かれる
  - 全体で40を超える数のマイナー・プログラム。必修ではないが、卒業要件単位数に含めることが可能。
    - オナーズ型はNICEプログラム開始以前に取り組んでいた旧副専攻。2024年度以降入学者は修了認定対象外とし、多くはパッケージ型に移行。
  - パッケージ型はメジャーの基礎を固めるような科目群で構成された（いわばミニ・メジャー）のものもあれば、メジャーにはない学際分野のテーマを扱ったものもある

	学修創生型	パッケージ型	オナーズ型
開設数	1	人文・社会科学分野：13 自然科学分野：14 保健学分野：1 学際分野：12	課題別：8 分野別：6
科目の選び方	自分で選ぶ	科目リスト	科目リスト
修了認定単位数	14単位以上	12単位以上	24単位以上 （うち12単位は卒業要件外）

NICEプログラム（2024）「マイナー・プログラム一覧」（https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/program.html）

マイナーの種類と履修の流れ

	学修創生型	パッケージ型	オナーズ型
開設数	1	人文・社会科学分野：13 自然科学分野：14 保健学分野：1 学際分野：12	課題別：8 分野別：6
科目の選び方	自分で選ぶ	科目リスト	科目リスト
修了認定単位数	14単位以上	12単位以上	24単位以上 （うち12単位は卒業要件外）

学修創生型マイナーの必修科目

マイナーの入門科目
学生自身がもつ興味・関心、問題意識を探究課題として明確にし、**<u>体系的な履修計画</u>**を作成

「マイナー学修デザイン」
- 探究課題
- 分野横断的学修のキーワード
- 履修候補科目の一覧

マイナーの総括科目
自身のマイナーの学修を振り返り、その学修成果を示す

- 自分で作成したマイナーの概要
- マイナーの履修科目
- マイナーの学修成果
- キーワード

「確定版マイナー学修デザイン」と「NICEカリキュラム・マップ」を作成、発表

「マイナー学修デザイン」
分野横断デザインで計画→分野横断リフレクションで確定

NIIGATA UNIVERSITY

・「マイナーの概要」〔左〕と「学修計画」（履修候補科目の一覧）〔右〕から成る履修計画書
自分の学びに**「名称」**をつける

マイナー学修デザイン

作成年月日：　年　月　日〔第　版〕

学籍番号		学部・学科 学年	
氏名		主専攻	【決定前の場合は，希望するプログラム名を記載】

マイナーの型	□ 学修創生型　〔必要単位数：14 単位〕 □ パッケージ型　（　　）〔必要単位数：12 単位〕 □ オナーズ型　（　　）〔必要単位数：24 単位〕 ※ 該当する型に印をつけ，パッケージ型，オナーズ型の場合はパッケージ名，プログラム名を記入

▼マイナーの概要

名称	
ねらいと概要	
到達目標	
マイナー学修のキーワード	① ② ③ ④
備考	

キーワード①						
	開講番号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
	このキーワード枠での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）					

キーワード②						
	開講番号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
	このキーワード枠での修得予定単位	の科目の合計ではありません）				

キーワード③						
	開講番号	キーワードに関連	水準	履修学年	単位数	備考
1						

興味・関心を探究課題に引き上げるには？

「分野横断」を実践するためのキーワードとは？

目的に合う科目を見つけるには？

→分野横断デザイン内の個人ワークやグループワークで段階的に作成
→その過程で**アカデミック・アドバイジング**の必要性が生じる

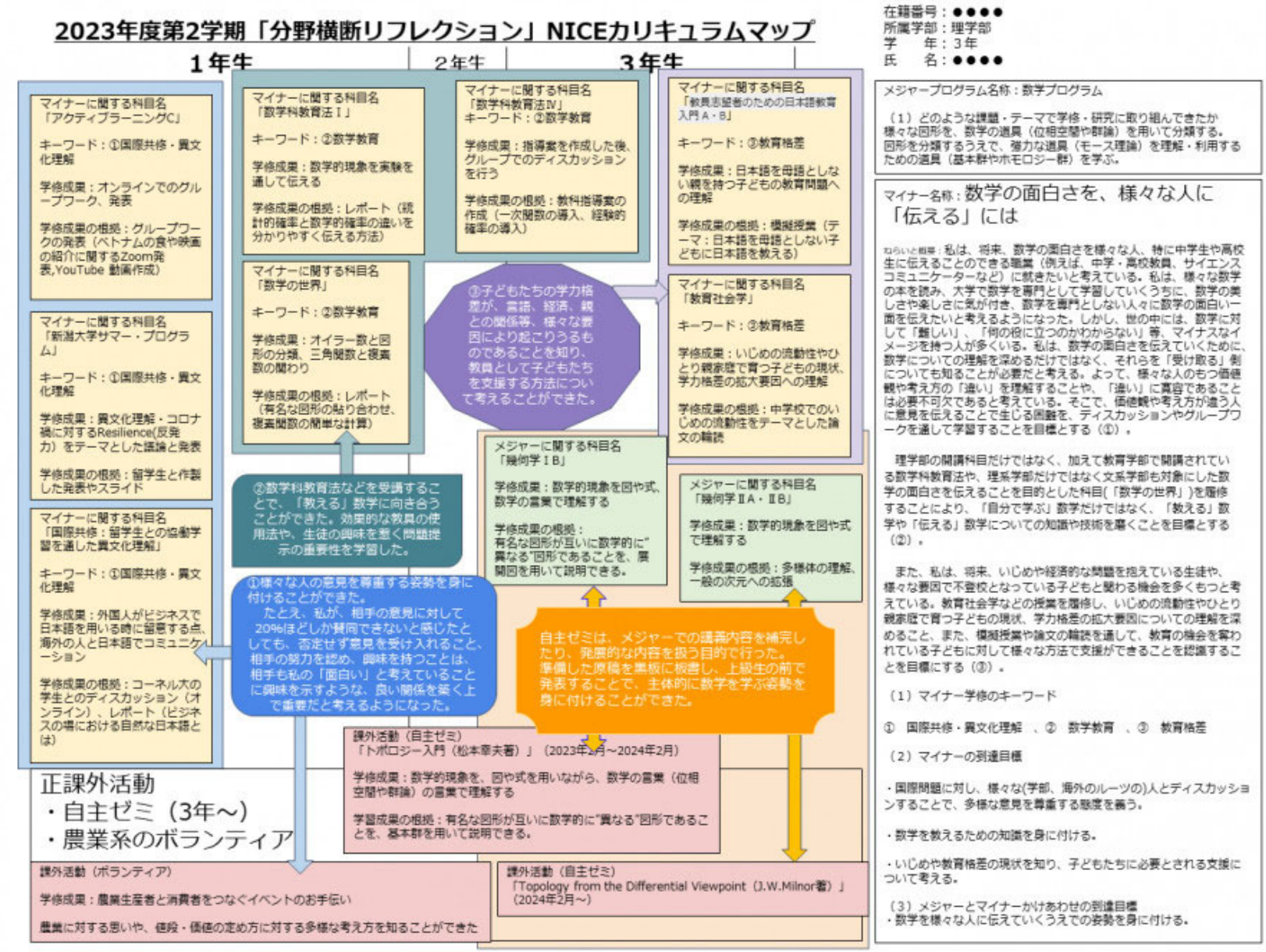
【参考】学修創生型マイナー：「マイナー学修デザイン」名称例

- 地形から地方を盛り上げる　（人文学部）
- 地域格差による子供たちへの影響　（教育学部）
- 持続可能な社会づくりに向けた経済政策プロフェッショナル　（法学部）
- マイノリティの視点から考える共生社会　（法学部）
- 数学の面白さを伝えるには？　（経済科学部）
- 店の敷居の高さは人間のどのような意識に依っているか　（経済科学部）
- 科学、思いを表現し、伝え、伝わるようにする　（理学部）
- ICT技術を活用した発展途上国の教育システム　（工学部）
- ジェンダー観の変遷を探り、ジェンダー平等の促進を考える　（農学部）
- 新潟の地域連携とまちづくりをケーススタディとして学ぶ　（創生学部）
- 学校教育におけるSDGs教育の実践　（創生学部）

共生社会の実現、まちづくり、地域活性化、国際支援、地域格差、科学コミュニケーションなどのテーマを、<u>自分の文脈で</u>展開したマイナー

「NICEカリキュラムマップ」
分野横断リフレクションで作成
マイナーの学修内容と学修成果を視覚的に示す

NIIGATA UNIVERSITY



在籍番号：●●●●
所属学部：理学部
学　　年：3年
氏　　名：●●●●

メジャープログラム名称：数学プログラム

（1）どのような課題・テーマで学修・研究に取り組んできたか
様々な図形を、数学の道具（位相空間や群論）を用いて分類する。図形を分類するうえで、強力な道具（モース理論）を理解・利用するための道具（基本群やホモロジー群）を学ぶ。

マイナー名称：数学の面白さを、様々な人に「伝える」には

ねらいと概要：私は、将来、数学の面白さを様々な人、特に中学生や高校生に伝えることのできる職業（例えば、中学・高校教員、サイエンスコミュニケーターなど）に就きたいと考えている。私は、様々な数学の本を読み、大学で数学を専門として学習していくうちに、数学の美しさや楽しさに気が付き、数学を専門としない人々に数学の面白い一面を伝えたいと考えるようになった。しかし、世の中には、数学に対して「難しい」、「何の役に立つのかわからない」等、マイナスなイメージを持つ人が多くいる。私は、数学の面白さを伝えていくために、数学についての理解を深めるだけではなく、それらを「受け取る」側についても知ることが必要だと考える。よって、様々な人のもつ価値観や考え方の「違い」を理解することや、「違い」に寛容であることは必要不可欠であると考えている。そこで、価値観や考え方が違う人に意見を伝えることで生じる困難を、ディスカッションやグループワークを通して学習することを目標とする（①）。

理学部の開講科目だけではなく、加えて教育学部で開講されている数学科教育法や、理系学部だけではなく文系学部も対象にした数学の面白さを伝えることを目的とした科目（「数学の世界」）を履修することにより、「自分で学ぶ」数学だけではなく、「教える」数学や「伝える」数学についての知識や技術を磨くことを目標とする（②）。

また、私は、将来、いじめや経済的な問題を抱えている生徒や、様々な要因で不登校となっている子どもと関わる機会を多くもつと考えている。教育社会学などの授業を履修し、いじめの流動性やひとり親家庭で育つ子どもの現状、学力格差の拡大要因についての理解を深めること、また、模擬授業や論文の輪読を通して、教育の機会を奪われている子どもに対して様々な方法で支援ができることを認識することを目標にする（③）。

（1）マイナー学修のキーワード

①　国際共修・異文化理解　、②　数学教育　、③　教育格差

（2）マイナーの到達目標

・国際問題に対し、様々な(学部、海外のルーツの)人とディスカッションすることで、多様な意見を尊重する態度を養う。

・数学を教えるための知識を身に付ける。

・いじめや教育格差の現状を知り、子どもたちに必要とされる支援について考える。

（3）メジャーとマイナーかけあわせの到達目標
・数学を様々な人に伝えていくうえでの姿勢を身に付ける。

理学部
数学プログラム
3年
Tさんの事例

NICEプログラム概要：アカデミック・アドバイジング

アカデミック・アドバイジングとは

「学生自身による将来の目的・目標の決定とその達成に向けて、担当者が途中段階のアセスメントを行いながら学生個人のニーズに沿った支援をすること」（日本アカデミック・アドバイジング協会, n.d.）

NICEプログラムにおけるアカデミック・アドバイジング

NICEプログラムでは、アカデミック・アドバイザー（AA）が、
マイナーの履修指導を中心としたアカデミック・アドバイジングを提供→**学修デザイン相談**と呼称

学修デザイン相談

① マイナー履修に関する情報提供
② マイナー履修計画段階における課題設定、分野横断的学修のキーワード設定、科目選択に関するアドバイス
③ マイナー履修フォローアップ

【時間】 11:55-12:45（昼休み）、3限、4限
【場所】 NICEプログラム室（学修相談室）
【対応者】 プログラム特任教員（アカデミック・アドバイザー）2名
※メールの質問は適宜対応

マイナー履修における困難を抽出・分析し、**教職協働を視野に入れたマニュアル**を作成

日本アカデミック・アドバイジング協会（n.d.） https://academic-advising.jp/

NICEプログラム概要：アカデミック・アドバイジング

学修デザイン相談事例

アカデミック・アドバイジングの流れ【学修創生型マイナーの例】

1

- 農学部１年　（生物資源科学プログラム or 流域環境学プログラム希望）
- 食糧の面から人の役に立ちたい。途上国の食糧危機を解決したい。
  生物資源科学プログラムで新品種の開発に取り組み、新品種の普及活動。
- 最近スマート農業（流域環境学プログラム）にも興味が出てきて、主専攻プログラムに迷いが出てきた。主専攻が決まらないので、マイナーをどうしたらよいかわからなくなった。

2

- 「新品種の開発」と「途上国の食糧危機の解決」。自分の気持ちがより多く向いているのはどちらか？→「途上国の食糧危機の解決」
- 食糧危機という課題の解決方法は、新品種の開発だけではない。スマート農業による既存品種栽培の効率化でも可能なはず。いずれの手段をとったとしても、共通していることは何か？→「現地での活動」
- 現地のことを知るのは不可欠だが，普及の「対象」として相手を見るのではなく，対等な存在としてコミュニケーションすることも求められるのでは？

学修創生型マイナー　異文化理解と相手を意識したコミュニケーション

3

【分野横断学修のキーワード】 文化を知る／社会を知る／自己表現／実践的なコミュニケーション

【履修候補科目】 「宗教学概説」〔人文〕、「公衆衛生学」〔農〕、「環境経済システム論I」〔理〕、「平和と現代のグローバル安全保障論」〔全学〕、「対人行動の心理学」〔全学〕、「外国語ベーシック（フィリピノ語）」〔全学〕、「国際共修」〔全学〕、「多文化間共修」〔全学〕

取り組みの成果

履修者数拡大のための方策と成果（R5年度）

- 学部ガイダンスでのNICEプログラム案内

  五十嵐キャンパス8学部での「新入生向けガイダンス」内で、プログラム教員がNICEプログラムの概要と「分野横断デザイン」の履修について説明を実施

- 「NICEプログラム履修ガイダンス」の開催日程の拡大、内容の多様化

  R4年度は2日間に集中して開催していたガイダンスを7日間に拡大。授業期間中の昼休みや5限に開催を拡大、また各マイナー代表教員の参加するパッケージ型、オナーズ型に特化したガイダンスを開催。
  →参加者数：299名

- 「分野横断デザイン」の開講数の拡大

  令和3年度は学期版2科目、令和3年度は学期版2科目＋eラーニング版1科目の計3科目開講だったところ、各ターム3科目開講し、開講数を8科目に大幅に拡大

【令和5年度】
「分野横断デザイン」
開講

	第1学期		第2学期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
ターム版	月4限（対面）	月4限（対面）	月4限（対面）	月4限（対面）
	月5限（対面）	月5限（対面）	月5限（対面）	月5限（対面）
	木6限（対面）	火3限（遠隔）	火4限（対面）	火4限（対面）
学期版（隔週開講）	〔集中〕隔週 水6限（遠隔）		〔集中〕隔週 火6限（遠隔）	

→ 合計の履修者数は300名弱となり、令和5年度の数値目標（200名）を達成

スチューデントアシスタント（SA）によるピア・サポート体制

SAの役割

- 「分野横断デザイン」単位修得者を採用（公募・指名）
- 授業の進行やグループワークの補助
  - SA自身もマイナー学修を行っているため、受講者に対して具体的かつ実践的なアドバイスを提供
- 広報活動
- 月1回全体研修会（27名）→
- ピア・サポート
  - 学生が自律的に学修を進め、幅広い知識を獲得するための特に重要な柱

NICEプログラム教員と既存SAによる新SA研修

NICEプログラム教員とSAによる研究発表

SPODフォーラム2024（香川大学）ポスターセッション

分野横断学修者をピアサポートするSAマニュアルの検討

上畠洋佑（新潟大学教育基盤機構 准教授）、澤田翔（新潟大学法学部３年）、
佐々木真理也（新潟大学経済科学部４年）、青柳匠馬（新潟大学法学部３年）、小山 凱人（新潟大学教育学部３年）
連絡先：yuehata@ge.niigata-u.ac.jp（上畠洋佑宛）

発表の概要

新潟大学では、令和6年度から全学部に展開した大規模なメジャー・マイナー制の教育を実現している。本学では、このメジャー・マイナー制を支えるアカデミック・アドバイザーを雇用し学生の分野横断学修を支援するとともに、NICEプログラムSA（スチューデント・アシスタント）を13名雇用し、授業内外で分野横断学修者の学びの支援（ピアサポート）を行っている。

令和６年度からSA体制を強化するために、SA全員が参加し日々のSA活動を振り返り、研鑽しあうSA研修会を実施している。当研修会の中で、SAによるピアサポート（学生による学修支援）のノウハウが蓄積している一方で、SA間、さらには教員とSAの間で分野横断学修を支援する様々な困難が十分に共有できていない課題が示された。それを踏まえ4名のSAが中心となって、その課題を解決に導くSAマニュアル作成に向けて動き出した。

本報告では、本マニュアル検討開始から現在までのプロセスと成果について報告する。

NICEプログラムとスチューデント・アシスタント（SA）とは

全学分野横断創生プログラム「NICEプログラム」の概要

学修創生型マイナー を履修する学生の マイナー学修デザイン作成を支援するSA

学修創生型マイナー
学生が自分で新たに作ることができるマイナー・プログラム。マイナー・プログラムを自ら作ることができるという学生の「自律と創生」を求めるとともに、「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」という必修科目によって、独自のマイナー・プログラムが新潟大学において認証するに足る質であることを保証している。

分野横断学修者をピアサポートするSAマニュアルの検討

プロセス①

SA研修会（2024年4、5、8月の計3回開催）
SA全員が集まりSA活動を振り返り研鑽しあう機会

・当研修会の中で、SAによるピアサポートのノウハウが蓄積している一方で、SA間、さらには教員とSAの間で分野横断学修を支援する様々な困難が十分に共有できていない課題が示された。
・それを踏まえ4名のSAが中心となって、その課題を解決に導くSAマニュアル作成に向けて動き出した。

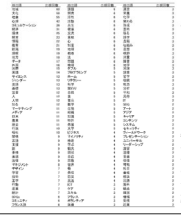
プロセス②

マイナー学修デザインの質的分析①
（242名分のマイナー学修デザインの類型化）

・2023年度「分野横断デザイン」受講者の「マイナー学修デザイン」の類型化を行った。まず、KH Coder（Version:3.02 official-package）を用いて、マイナー学修デザインの「マイナー名称」と「キーワード」の頻出語（右図）を抽出し、共起ネットワーク（左図）を作成した。

プロセス③

マイナー学修デザインの質的分析②
（242名分のマイナー学修デザインの類型化）



プロセス②の結果を参考に澤田が242名のマイナー学修デザインを分類化した。分類の結果は以下の通りである。

■マイナー学修デザインの7分類
①地域…88名
②多文化共生…41名
③心理…33名
④経営…29名
⑤コミュニケーション…19名
⑥環境…17名
⑦情報…15名

補足①「地域」内でのさらなる分類について
・地域リーダー…44名。
・地域の発展に伴う、地域を興味に変化させたり、地域の魅力を発信するもの…8名。
・地域を法学や政治学の視点で学つめ、制度変革を目指すもの
・地域工学…3名。
・工学的なアプローチ。例えば社会基盤や建築などで地域貢献を目指すもの
・地域教育…2名。
・地域に住む子供たちの教育についてのもの
・地理学…2名。
・地域学の中でも「古地」の側面に焦点をあてたもの
補足②　類似分析における類型類似の根拠
　　深層分類作業（１）～全員で分類検討～深層分類作業（２）

成果と今後の課題

成果

新潟大学アカデミック・アドバイザー、NICEプログラムSAにとってのマイナー学修サポートデータベース＜MSDB（仮称）＞を構築できた

・学修創生型マイナー履修者が「マイナー学修デザイン」の科目リストを作成する際に、マイナー学修デザインの7分類を履修学生にあてはめることで効率的に支援できる可能性
　具体的に…①学修創生型マイナーのキーワードを設定する際の「辞書」になる
　　②学修創生型マイナーの「科目リスト」を作成する際、どのような科目履修を選択していけばいいのか推奨する「リファレンス（参考情報）」になる
（メリット）マイナー学修者に先達のゴールを示すことができる
（デメリット）学生の「自律性」と「創生」する力が損なわれる恐れがある

今後の課題

◇試行版マニュアルの作成
　MSDBの具体的な活用方法をマニュアルとして落とし込んでいく（令和6年度中）
◇試行版マニュアルのピアサポート実践での活用
　作成したマニュアルを令和7年度授業から活用
◇未経験SAの研修での活用の検討
　令和6年度10月から新規SAを14名追加雇用する。
　年度内にSA研修を体系化し、その中に組み込む。

＜参考文献＞
柿原葉（2024）「連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成　メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（4）学生自ら編成するマイナー・プログラムと支援科目」『文部科学教育通信』578、18-20
日本ピア・サポート学会企画、春日井敏之・増田梨花・池嶋之編著（2020）「ピアチューター・トレーニング－学生による学生の支援へ」ナカニシヤ出版
谷川裕稔・石毛弓編（2014）「ピアチューター・トレーニング－学生による学生の支援へ」ナカニシヤ出版

今後の展望

国立大学改革の推進

令和7年度要求・要望額
国立大学法人運営費交付金　1兆1,145億円（前年度予算額　1兆784億円）
国立大学法人先端研究等施設整備費補助金　6億円（新規）
国立大学経営改革促進事業　55億円（前年度予算額　52億円）

文部科学省

価値創造の源泉となる研究力の強化等、ミッション実現に向けた大学改革を推進しつつ、安定的・継続的に教育研究活動を支援

ミッション実現に向けた重点支援

- **教育研究組織の改革に対する支援**　**103億円**（新　規）
  ※継続分243億円と合わせて、総額346億円
  国際頭脳循環の実現や研究力強化等に向けた教育研究組織改革（国際化、大学間連携による地方創生、デジタル・グリーン等）を推進
  ※教育研究活動の充実等に向けた附属学校の機能強化のための支援を含む
- **教育研究基盤設備の整備等**　**334億円**（＋220億円）
  DX化に資する設備等の整備を通じて業務効率化を推進するとともに、教育研究等の基盤的な設備整備や維持・継続に必要な環境整備への支援を実施

我が国全体の研究力強化

- **汎用性の高い中規模研究設備の整備**　**127億円**（新　規）
  ※うち、国立大学法人先端研究等施設整備費補助金　6億円
  国の整備方針に基づき、大学の枠を超えた組織間の連携による我が国の研究基盤の強化に資する中規模研究設備の整備を推進
- **共同利用・共同研究拠点の強化**　**58億円**（＋　3億円）
  文部科学大臣の認定した共同利用・共同研究拠点の活動等を支援
- **世界の学術フロンティアを先導する大規模プロジェクトの推進**　**238億円**（＋ 29億円）
  人類未踏の研究課題に挑み、世界の学術研究を先導するとともに、最先端の学術研究基盤の整備を推進
  ※このほか、国立大学法人先端研究推進費補助金等　215億円（+84億円）を計上

＜教育研究組織の改革事例＞

新潟大学
未来教育推進コア
分野横断・産学横断・グローカルの統合による社会創生教育と生成AI・データサイエンス教育を併せた「未来教育」を実施し、社会の変革・地域の問題解決を担う人材を育成

金沢大学
能登里山里海未来創造センター
能登をフィールドに“人口減少を乗り越える地域の産業・まちづくり”の教育研究を推進し、県内全ての高等教育機関が参画する「大学コンソーシアム石川」とも連携のうえ、震災を起点とする新たな総合知を創出

北海道大学
半導体フロンティア教育研究機構
半導体工程全体を俯瞰した研究開発を実現するとともに、半導体を「つくる」人材と「つかう」人材を育成するため、地域の半導体企業との連携により教育プログラムを実施することで、高度半導体人材を輩出

鳥取大学
地域未来共創センター
鳥取県内の市町村等と地域連携プラットフォームを構築し、地域の課題解決、学生目線の人材育成・地域定着の取組を推進

筑波技術大学
共生社会創成学部
障害者に特化したディプロマサプリメントの開発や、教育情報システムのユニバーサルアクセス化等を通じて、教育支援体制を拡充し、その成果を横展開することで、我が国のダイバーシティ＆インクルージョンをけん引

熊本大学
附属小学校・中学校
多くの授業科目を英語で行う国際クラス（仮称）を附属小・中学校に新設し、グローバル化や多文化共生に資する教育・研究を展開することで、大学や地域のグローバル化を推進

鹿児島大学
附属図書館
全学的に研究成果のオープン化を促進し、多様な研究データの戦略的な利活用、研究資料のデジタル化、研究発信力の強化、即時オープンアクセスの着実な実行を推進

東京科学大学
リサーチインフラマネジメント機構
高い技術力と研究企画力を持つ技術職員等高度技術人財を育成・認定するTC（テクニカルコンダクター）カレッジをオールジャパンのシステムとして発展・強化

改革インセンティブ

- **成果を中心とする実績状況に基づく配分**　＜参考：令和6年度予算の状況＞　配分対象経費：1,000億円、 配分率：75%～125%（指定国立大学法人は70%～130%）
  各大学の行動変容や経営改善に向けた努力を促すため、教育研究活動の実績・成果等を客観的に評価し、その結果に基づく配分を実施

国立大学の経営改革構想を支援

国立大学経営改革促進事業　**55億円**（＋　3億円）　（国立大学改革・研究基盤強化推進補助金）

ミッションを踏まえた強み・特色ある教育研究活動を通じて、先導的な経営改革に取り組む“地域や特定分野の中核となる大学”やガバナンス改革を通じて“トップレベルの教育研究を目指す大学”を支援。特に、寄附金等の民間投資を促進する体制構築（ファンドレイジングやアウトリーチ活動のためのスタッフ確保等）に係る取組の強化を図る

（担当：高等教育局国立大学法人支援課）

新潟大学

アカデミック・アドバイジング マニュアル

全学分野横断創生(NICE)プログラム

2024年 3月 作成

1. アカデミックアドバイジングについて

新潟大学におけるアカデミック・アドバイジング

メジャー・マイナー制のもとで、マイナー・プログラムの履修を中心に学生自身の学修目的や将来の目標設定・達成を継続的に支援すること。

➢ 分野横断的学修に関する個別の学修相談（履修開始～履修中～履修修了までの伴走的支援）

アカデミック・アドバイジングのニーズ

■ **アカデミック・アドバイジングの対象学生**

① マイナー・プログラムの履修を検討している学生（主に1・2年生）

② マイナー支援科目の履修学生

・「分野横断デザイン」（1・2年生）

・「分野横断リフレクション」（3・4年生）

③ マイナー・プログラムを履修中の学生

■ **主な相談内容**

・ 興味・関心のあること、やりたいことはあるが、具体的にどのマイナー・プログラムの履修につながるのかわからない（①・②の学生）

・ 自らの学修構想や計画に対する疑問や悩みを解消して、何を、どのようにしていけばよいかを見出したい（①～③の学生）

・ 自ら設定した探究課題について、分野横断的な展開ができないのでアドバイスが欲しい（主に②の学生）

＊「学び」に関する相談で訪れた場合でも、その学生が抱える「悩み」がアカデミック・アドバイジングの対応範囲を超える場合には、「学生なんでも相談窓口」や保健管理センターなどの学内関連部署を案内する（リファー：適切な支援部署に学生をつなげること）。

アドバイジングの前提

■ **分野横断的学修を進めるにあたり重要なのは、学生自身がもつ「資源」である。**

資源とは？

学生がもっている知識、技能、資格、経験、興味・関心、問題意識、思考、表現、人間関係など。

■ **学生が自分の資源の価値に気づけていないことが、分野横断的学修を形づくる上での障壁となる。**

➢ 学修相談では、アカデミック・アドバイザーとの対話を通して、①学生が自らの思考を言語化・整理する、②学生が自らの資源を大学における学修目的や将来の目標に結びつけることを目指す。

2. 学修相談の準備

学修相談の設定

・曜日、時間の設定：オフィスアワー等を利用して、30分程度（前後することもある）
・予約制で対応するのが望ましい
　→ 予約時に相談内容を把握しておくことで、面談前の事前準備が可能

【参考】 NICEプログラムでは

・曜日・時間：学期中の火・木・金曜日　昼休み、3限、4限
・予約方法：Microsoft Forms、メール
（NICEプログラムWEBサイトやパンフレットにURLやメールアドレスを掲載）

準備資料

①マイナー・プログラム関連資料
　・「マイナー・プログラム履修ガイド」
　・各マイナー・プログラムの科目リスト

　➢NICEプログラムウェブサイトより閲覧・ダウンロード可能
　　全学分野横断創生(NICE)プログラム＞マイナー・プログラム一覧
　　https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/program.html

②各学部の卒業要件、取得可能な免許・資格に関する資料
　・各学部の「学生便覧」

　➢各学部で取得可能な免許・資格等の一覧
　　新潟大学＞学部・大学院＞教育 教育プログラム＞取得できる教員免許・資格
　　https://www.niigata-u.ac.jp/academics/education/program/license/

　・〔教育学部以外〕「教育職員免許状取得ハンドブック」
　　教職ガイダンスにて冊子体の配布あり

　➢教育基盤機構 全学教職センターウェブサイトより閲覧・ダウンロード可能
　　教育基盤機構 全学教職センター＞冊子・用紙等のダウンロード
　　https://www.kyoshoku.niigata-u.ac.jp/download/index.html

③学内教育資源に関する資料
　「新潟大学学修ガイドブック」「新潟地域志向科目パンフレット」
　「『学外学修科目』ガイダンス日程リーフレット」「ダブルホームパンフレット」
　「Gコード英語科目の紹介」、「短期英語集中科目(iStep)について」
　「外国語学習支援スペース（FL-SALC）について」

　➢上記資料は「新入生配布資料」として、新潟大学ウェブサイトより閲覧・ダウンロード可能
　　新潟大学＞学生生活・就職＞学生生活・授業＞新入生配付資料
　　https://www.niigata-u.ac.jp/campus/life/ns_shiryou/

④海外留学に関する資料・情報
・「海外留学ガイド」

➢上記資料のほか、留学ガイダンス等の情報は新潟大学ウェブサイトより・閲覧ダウンロード可能
新潟大学＞国際交流・留学＞海外への留学＞留学制度・留学ガイダンス・留学相談
https://www.niigata-u.ac.jp/international/study-abroad/system/

⑤学内の学生支援部署に関する情報
・保健管理センター、学生なんでも相談窓口、学生支援相談ルーム、特別修学サポートルーム

➢各学生支援部署についての情報
新潟大学＞学生生活・就職＞学生生活・授業＞学生相談窓口
https://www.niigata-u.ac.jp/campus/life/consultation/

➢「学生なんでも相談室」、「学生支援相談ルーム」、「特別修学サポートルーム」のパンフレットは以下より閲覧・ダウンロード可能
新潟大学＞学生生活・就職＞学生生活・授業＞新入生配付資料
https://www.niigata-u.ac.jp/campus/life/ns_shiryou/

NICEの学修相談で使用している機材

・コンピュータ：相談の記録、資料提示、情報検索等

・ホワイトボード、マーカー：相談内容の可視化

・タブレット：ホワイトボードの内容を写真で記録

・QRコード：「学修相談受付票」「学修相談満足度アンケート」
いずれもMicrosoft Forms

3. 学修相談の流れ

マイナー・プログラムの履修を希望する新入生への面談をモデルに、個別相談の大まかな流れを提示します。

事前準備

- 予約時に把握した相談内容に応じて、情報収集や資料を準備し、相談の流れを組み立てる。
- マイナーで修得する単位が、学部の卒業要件のどこに分類されるかについて確認しておく。

学修相談の開始

- あいさつ、相談学生の氏名・所属などの確認。相談者の自己紹介。

Tips: 学生の緊張をほぐすために話しやすい雰囲気づくり

Yes/Noクエスチョンではない質問をすることで、自然と双方向的なやりとりになる。ひとつの話題をきっかけに会話のターンが続くと、対話の場としての安心感につながる。
e.g.）出身地、部活・サークル、希望する学位プログラムについて、など。

- 相談のゴールを示す。
- 相談内容の傾聴を心がけ、学生が感じている困難について自身の言葉で語ってもらう。
- ホワイトボードに必要な情報を書き出す。

相談中

- 「なぜ？」「どんなふうに？」「いつから？」など、5W1Hの問いかけから対話を進め、情報の収集につとめる。
- 学生から出た言葉を他の表現に言い換えたりして、相談内容の認識についての共有を図る。
- 学生が話につまるようなら、その学生の「資源」について積極的に問いかけて、それらが学びの探究課題につながっていくことや、分野横断を考えるための基盤になることを伝える。

Tips: 学生側の「気後れ」や「思い込み」に気を配る

新入生は、大学の学びについて「非常に高尚なもの」というイメージをもっている場合がある。「自分の興味・関心なんて取るに足りない」「自分のやりたいことを大学の先生に語るのはおそれ多い」という気持ちや、「就職につながらないことには意味がない」という思い込みから、自分の興味・関心や問題意識（日常生活から覚える違和感）について語れないことがある。

「特にやりたいことがない」と話す学生は、こうした思い込みに囚われている場合もあるので、「役に立つとか立たないとか、そうしたジャッジは脇において話してみて」と促してみるとよい。

大学受験後に燃え尽きてしまった（バーンアウト）学生、不本意入学（第一志望校、学部ではない入学）の場合は、「何かしなければ」という焦りからマイナー・プログラムの履修を考えることも多い。学修相談より専門家の支援が望ましいと思われた場合は、学生にその旨を伝えて、学内の学生支援部署を案内することも視野に入れておきたい（リファー）。

相談の終了

- マイナー・プログラムの履修だけでなく、学部のメジャーのほか、サークルや部活動、インターンシップ、アルバイトなど大学生活を構成するさまざまな要素を明確にする。
- 俯瞰的な視野をもって、マイナーの履修計画など、今後の行動についておおまかな計画を立てる。
- 一度の面談で課題解決にいたらない場合は、次回の相談日時とそれまでに取り組んでおくタスクを決める。

4. 学修相談の事例①

ここではNICEで記録している学修相談の内容（本人の承諾済み）をもとに、テキストと写真で相談事例を提示します。

【来室経緯】分野横断デザイン（火曜4限）の履修者で、5/7の授業後に本人より申し出があり設定した。
【相談内容】マイナーの方向性は決まっているが、具体的な点を明確にしたい
【学生の所属】農学部1年・学位プログラム未定

学生：学修創生型マイナーの探究課題は「健康面で困っている人の食の選択肢を増やす」としている。メジャーで取り組みたいことは決まっているが、マイナーの学びが具体的にならない。

AA：すでに自分の力で食物アレルギーをキーワードとして探究課題を決めることができている。次はメジャーとマイナーでそれぞれどのようなアプローチをしていくのかを探っていこう。

学生：メジャーは食品の成分や加工法について学びたいと考えている。マイナーは食の問題と教育の関係だったり、人体内部のメカニズムについて学びたい。でも、それらはメジャーに近く、広がりのない感じがする。

AA：前者は食物学の視点からアレルギーを扱うことができる。食物学は教育学部の科目である。後者については医学・生理学の観点から科目を検討してはどうか。それから、広がりをもたせるということであれば、社会的な視点を加えると分野横断的な要素が強まるだろう。ご自身が関心をもっていることを挙げてみてほしい。

学生：「アレルギーの16品目の表記が実際の消費にどう関係しているか」。これはアルバイトをしているコンビニで、レジの横にある食べ物にメモがついていて、そこから気になっていたことである。あとは、「（学校）給食とアレルギー対応」とか、「アレルギー検査の体制（の整備）」とか。その人がどんなアレルギーをもっているのか、血液型のように簡単に知ることができたら。

AA：アレルギーの検査が手軽に受けられたら便利かもしれない。でも、実際はそのようにはなっていない。その原因を探ってみるのもよいかもしれない。

学生：なんでそう思うのかというと、実は小学校の6年間、ずっと母の作ったお弁当を持参していた。姉がアトピーとアレルギーをもっていたから、あなたにもあるかもしれないということで。

AA：そのときは調べなかったのか。

学生：調べなかった。でも、小学校を通じてアレルギーがでなかったからないということがわかって、中学校からはみんなと同じ給食を食べるようになった。姉が小学校を卒業するタイミングで自分が入学したから、母は給食の献立を見ながら、それに似たもので12年間弁当を作っていた。

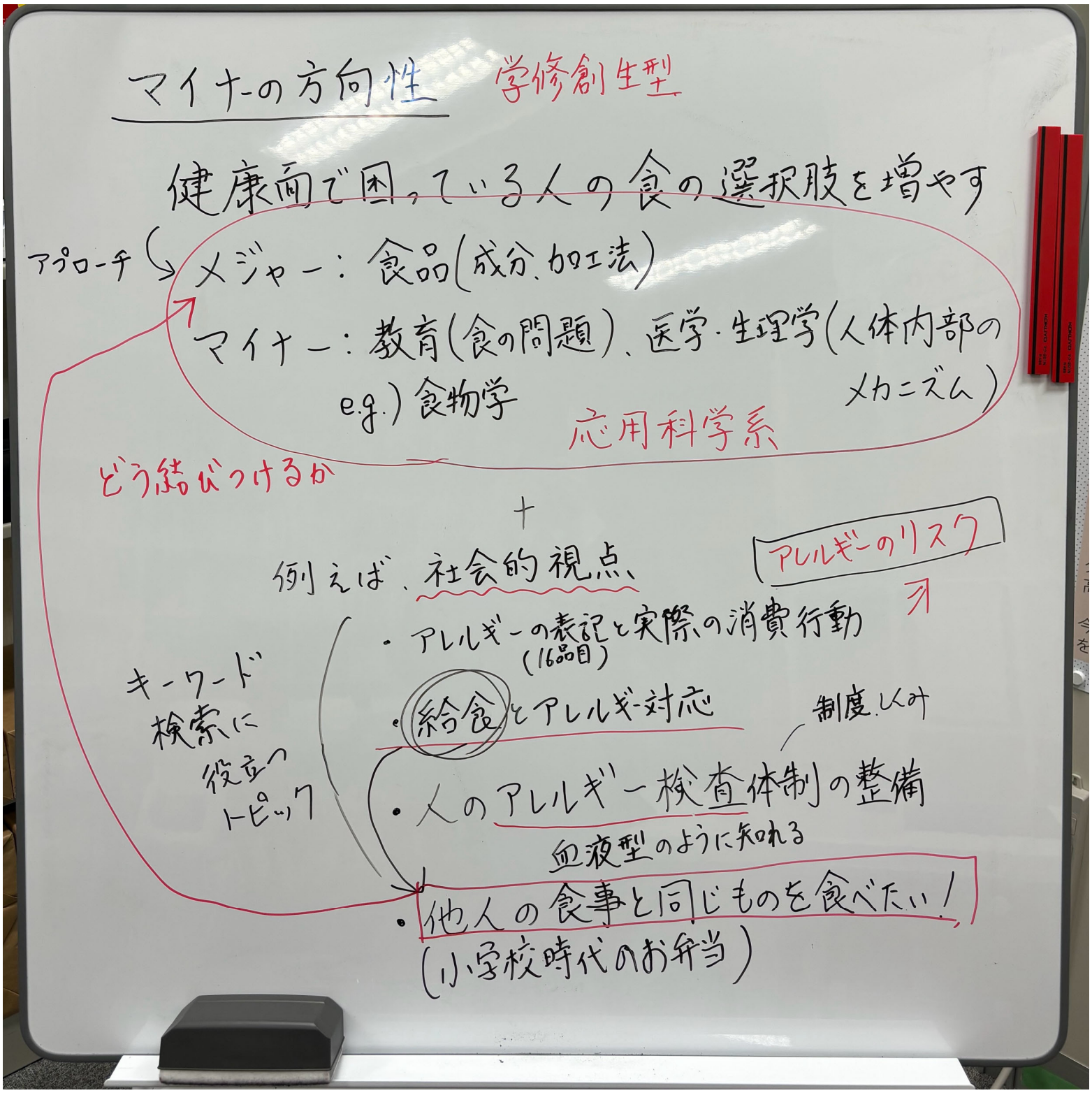
AA：小学校時代は給食でみんなと同じものを食べたかったのではないか。

学生：食べたかった。

AA：今語ってくれた内容は、きちんと探究課題につながっているし、社会的な視点を備えている。小学校時代に感じたことを探究課題の問題意識や背景にも結びつけることができるだろう。あなたが「他人と同じものを食べたい」と思った経験を大切にしながら、マイナーの具体化に取り組んでほしい。

学生：この方向で考えようと思う。

4. 学修相談の事例②



・相談終了時にホワイトボードを撮影する学生は多い（撮影しようとしない学生には記録として残しておくことを勧めている）。

・対応者も写真を撮影して記録に残している。

5. 学修相談の記録

・NICEプログラムでは、以下の参考例のように「学修相談データベース」を作成している

→ 履修に関する相談は、マイナー修了認定申請の際に増えることから、記録を残しておくことが重要

・記録があれば対応者が異なっても対応を引き継ぐことができる

・データベースをもとに相談事例を分析し、学修相談の改善に向けたフィードバックを得ることができる

・個人情報を扱うため、その保護には十分留意しなければならない

・倫理的配慮の観点にもとづき、相談データを研究等で活用する上で学生の承諾を得る必要がある。

【学修相談データベースの参考例】

番号	日時	対応者	学生	在籍番号	学部	学位プログラム	学年	マイナーの型	マイナー・プログラム	相談形式	相談類型	相談内容
1	2030/5/10 11:55-12:25	寺尾	五十嵐六花	E30A100B	経済科学	未定	1年生	パッケージ型	データサイエンスリテラシー	対面	履修	【来室経緯】分野横断デザイン（月曜5限）の履修者、メールでの問い合わせを受けて学修相談を設定 【相談内容】パッケージ型マイナーの履修科目の選択にあたって、シラバスの見方を教わりたい 五十嵐：パッケージ型マイナーの「データサイエンスリテラシー」の科目のうち、履修を希望する科目の水準が「13」で、履修対象の学部が指定されていたが履修できるのか。 →AA：担当教員に問い合わせしてほしい。 五十嵐：経済科学部のモジュールについて、モジュール科目をすべて履修することにはどんなメリットがあるのか。 →AA：単位を習得することで学問領域の基礎を一通り学ぶことができる、ただしパッケージ型と重なることも考えられるため、五十嵐さんの中で優先順位をつけることが必要である。

JAILA（国際教養学会）第12回全国大会（於：東洋大学白山キャンパス）ポスターセッション　ポスター④

新潟大学マイナー支援科目における授業SAの受講生へのアドバイスに関する研究
－対面授業と非対面授業の差異に着目して－

青柳匠馬（新潟大学学生 法学部２年）　上畠洋佑（新潟大学教育基盤機構 准教授）
連絡先：l22a127c@mail.cc.niigata-u.ac.jp（青柳匠馬宛）

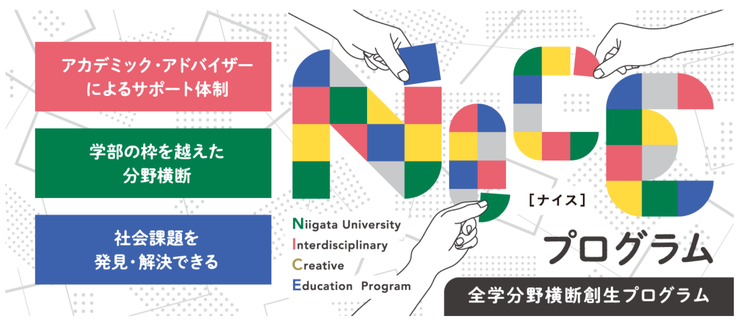
発表の概要

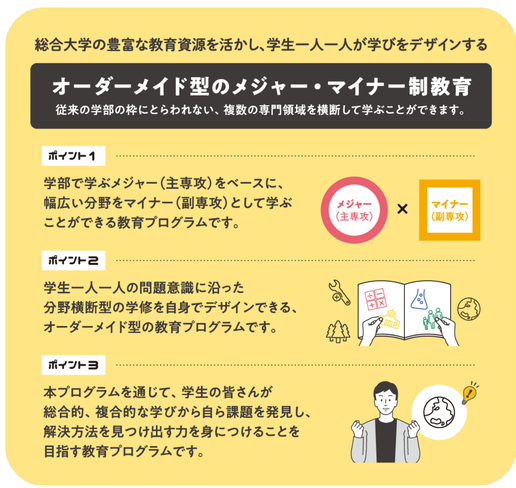
新潟大学は、メジャー・マイナー制教育とアカデミック・アドバイジングを融合させた「全学分野横断創生プログラム」（以下「NICEプログラム」）を実施している。この取り組みにおいて、受講する学生を、学生の立場から支援する「スチューデント・アシスタント（以下「SA」）」を配置しており、学生のマイナー選択や履修支援、授業のサポート等を行っている。本発表では授業を支援するSAの対面及び非対面授業中における受講生へのアドバイスの違いを研究テーマとする。本発表代表者は新潟大学マイナー支援科目「分野横断デザイン」の授業SAを令和4年はオンライン授業で、令和5年は対面授業で経験した。その経験を通して、対面授業の方が受講生にアドバイスしやすい点があることに着目した。本発表では本研究代表者と同様に授業SA経験をした学生にインタビューを実施し、その分析結果について報告する。

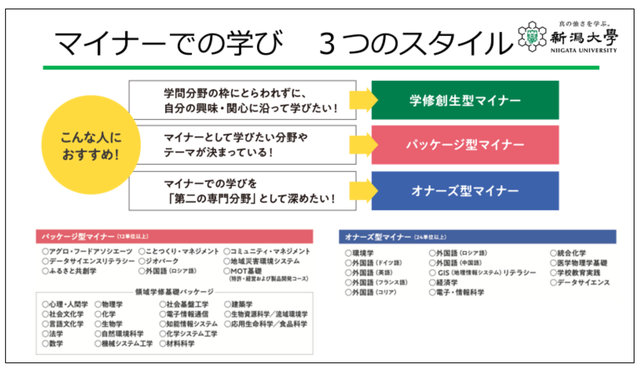
NICEプログラムとSA（スチューデント・アシスタント）とは

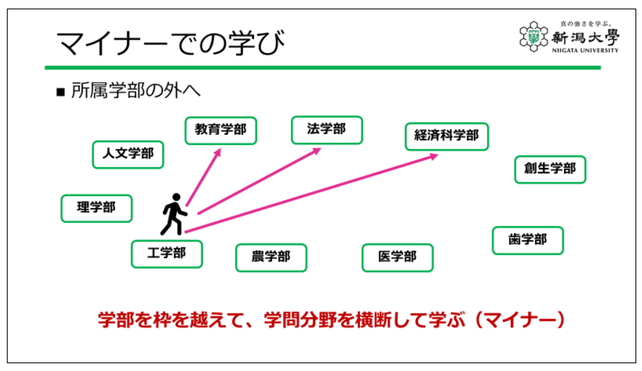
全学分野横断創生プログラム「NICEプログラム」の概要

NICEプログラムウェブサイト









スチューデント・アシスタント(SA)の概要

SAが感じる対面授業と非対面授業のメリット・デメリット

インタビュー調査の概要

対象
対面及び非対面授業を経験したSA（5名）
（2グループに分けて書く60~90分ずつ）

形式
インタビュー（フォーカスグループインタビュー）

質問項目
・対面及び非対面授業のSAを行った感想
・学生から学生へのアドバイスの良さについて
・各SAの受講生との関わり方の違い
・対面及び非対面それぞれのSAのやりやすさの違い

分野横断デザインとSA

授業の流れ	SAのアドバイス内容
受講生の興味関心事を探る	受講生との対話と通じて興味関心を探る・まとめる
興味関心と大学での学びの繋がりを考える	これまでの経験を活かして受講生の興味と大学の授業を繋げる
大学生活での学びの指針を決める	大学の授業だけでなく課外活動や将来に視野を広げて学修計画を設計する

非対面授業におけるメリット・デメリット

メリット

受講生視点
・個人の発表時間が保証されやすい
・ホームグループ（※）で強い繋がり
（※)8回の授業中同じ受講生で構成されるグループ
・他者とのふれあいと自分の学びや視座を得やすい

SA視点（アドバイス）
・１人１人の顔を正面から見られるから表情が分かる
・個人の成長が実感できる

SA視点（授業運営）
・受講生の名前がZoom画面に表示されているので分かる
・資料共有がしやすい
・グループワークをする際に物理的な移動がなくて楽

デメリット

受講生視点
・場の空気感が感じられない
・マイナーを学んでいく上で孤独感を感じる
・授業の始まりと終わりのメリハリつきすぎてしまう

SA視点（アドバイス）
・授業中ファシリテーションをする上で発言がしにくい
・授業中ファシリテーションをする上で時間に追われる
・SA業務として他のSAや教員に助けを求めにくい
・受講生へのアドバイスよりも時間を優先してしまう
・画面に映る自分の姿勢等を意識してしまう
・ブレイクアウトセッションの指定時間でグループワークが途中で切られてしまう

SA視点（授業運営）
・通信のタイムラグで同時に話してしまう
・通信環境に左右される

対面授業におけるメリット・デメリット

メリット

受講生視点
・受講生はLINE交換のような私的交流が行いやすい
・受講生は質問や相談を教員やSAに気軽に話しやすい
・受講生もSAもいろいろな学生と交流できる

SA視点（アドバイス）
・SA業務中の助けや少しの不安や疑問も投げかけやすい
・受講生の所作で困っているかがわかる
・受講生が困っている場合にすぐアドバイスができる
・学生主体で授業中学びを進めるため、SAに余裕ができる
・課題以外の部分で学生を見ることができ受講生に関する情報量が多くなるので理解度が上がる

SA視点（授業運営）
・グループの活動時間を微調整しやすい

デメリット

SA視点（アドバイス）
・非対面に比べて受講生と深く接する機会が減った
・受講生の進捗が把握しにくい
・受講生の情報が取り込みにくかった
・深いアドバイスが行いにくく「流れてしまう」
・SAから受講生に話しかけに行くのに心理的ハードルがある

SA視点（授業運営）
・受講生が多いと目立つ人に目を向けてしまう
・非対面のみ「分野横断デザイン」を受講し、対面の「分野横断デザイン」でSAを経験する場合の違和感が大きい

非対面と対面の比較

・非対面授業においては「受講生視点」のメリットが多く挙げられており、対面授業においてはアドバイス面における「SA視点」のメリットが多く挙げられている。

・対面授業における「受講生視点」の目立ったデメリットは挙げられなかったが、アドバイス面における「SA視点」のデメリットの数に大差はなかった。

・アドバイス面における対面デメリットについては、「心理的ハードルがある」以外の意見において「対面か非対面か」という要因以外の別要因が複数関係している可能性がある。つまり。授業形式において非対面と対面で異なっており、人数比についても開講されている授業ごとに差が生じているものと考えられた。

考察と今後の課題

考察

・SAの立場で考えると、意見の出やすさから「対面授業」の方がメリットが大きいと考えられる。
・両者のデメリットに差はないものの対面デメリットに関しては、別の要素が起因している可能性も考えられる。
・「対面か非対面か」という要素だけで判断すると相対的に「対面授業」の方がSAとしてアドバイスは行いやすいと考えられる。

今後の課題

◇新たな要因の考慮
　→今回の調査では授業が「対面か非対面か」のみを比較対象としていたが、調査を進めるにあたり別の要因も考慮する必要があることが分かった。

◇受講生へのインタビュー調査
　→今回の調査ではSAのみを対象としてインタビューを行ったがアドバイスの受け手である受講生側の意見を聞くことで、より「アドバイスの質」について検討しやすいと考える。

課題への対応案

◆授業における「受講生：SA：担当教員の人数比」と「授業形式」を考慮すべき観点として再調査を行う。

◆これまで授業内でSAからのアドバイスを受けた受講生にアンケート調査やインタビュー調査を実施する。場合によっては人数を絞って（各授業ごとに数名ずつ）インタビュー調査を実施する。

SPODフォーラム2024（香川大学）ポスターセッション

分野横断学修者をピアサポートするSAマニュアルの検討

上畠洋佑（新潟大学教育基盤機構 准教授）、澤田翔（新潟大学法学部３年）、
佐々木真理也（新潟大学経済科学部４年）、青柳匠馬（新潟大学法学部３年）、小山 凱人（新潟大学教育学部３年）
連絡先：yuehata@ge.niigata-u.ac.jp（上畠洋佑宛）

発表の概要

新潟大学では、令和6年度から全学部に展開した大規模なメジャー・マイナー制の教育を実現している。本学ではこのメジャー・マイナー制を支えるアカデミック・アドバイザーを雇用し学生の分野横断学修を支援するとともに、NICEプログラムSA（スチューデント・アシスタント）を13名雇用し、授業内外で分野横断学修者の学びの支援（ピアサポート）を行っている。

令和６年度からSA体制を強化するために、SA全員が参加し日々のSA活動を振り返り、研鑽しあうSA研修会を実施している。当研修会の中で、SAによるピアサポート（学生による学修支援）のノウハウが蓄積している一方で、SA間、さらには教員とSAの間で分野横断学修を支援する様々な困難が十分に共有できていない課題が示された。それを踏まえ4名のSAが中心となって、その課題を解決に導くSAマニュアル作成に向けて動き出した。

本報告では、**本マニュアル検討開始から現在までのプロセスと成果**について報告する。

NICEプログラムとスチューデント・アシスタント（SA）とは

全学分野横断創生プログラム「NICEプログラム」の概要

NICEプログラムHP

学修創生型マイナーを履修する学生のマイナー学修デザイン作成を支援するSA

学修創生型マイナー

学生が自分で新たに作ることができるマイナー・プログラム。マイナー・プログラムを自ら作ることができるという学生の「自律と創生」を認めるとともに、「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」という必修科目によって、独自のマイナー・プログラムが新潟大学において認証するに足る質であることを保証している。

マイナー学修デザイン

作成年月日：　2023　年　2　月　4　日（第　3　版）

学籍番号	＊＊＊＊	学部・学科・学年	創生学部１年
氏名	＊＊＊＊	本籍地	【決定前の場合は、希望するプログラムを名記載】地域科学プログラム

マイナーの型	☑ 学修創生型　（必要単位数：14 単位） □ パッケージ型　（　　）（必要単位数：12 単位） □ オナーズ型　（　　）（必要単位数：24 単位） ※ 該当する型に印をつけ、パッケージ型、オナーズ型の場合はパッケージ名、プログラム名を記入

■マイナーの趣旨

名称	森林科目による防災
ねらいと展望	近年、森林の動揺不足、また地球温暖化による風水害の増加や異常気象によって、土砂災害の被害が大きくなっていることが問題となっているため、土砂災害の被害を無くす、減らすといった対策方法を考えたい。そのためにメジャーで学ぶ予定である地質科学を通じて、また、森に関係・対応した分野について学びたいと考えた。この学修創生型マイナーでは授業を自由に設定できるため、自分の目的に合っていると考えた。 農業についての基礎知識を習得し、地球規模から見た地位の農業について理解する。上流域の森林から中山間地を抜けて沿海の平野部に至る一連の流域における環境・防災の諸問題を解決し、流域管理の視点を習得する。
到達目標	森林が持つ機能や役割について説明することができる。地域によって土砂災害に対する課題は異なるため、それに合った解決策を提案することができる。 メジャーとマイナーを用いた複数の視点から、土砂災害の防災・減災を実現するためにはどうすればいいのかを考えることができる。
マイナー学修のキーワード	①森林　②土砂災害　③防災　④
備考	

■学修計画

学修創生型マイナー、およびパッケージ型マイナー（ふるさと共創学）は、下記の２科目が必修です。

関講義号	学修創生型必修科目	水準	履修学年	単位数	備考
	分野横断デザイン（学修創生型マイナーの必修科目）	01		1	
	分野横断リフレクション（学修創生型マイナーの必修科目）	01	3 or 4	1	※ 分野横断デザインを２年生以上で履修した場合、本科目選択履修可能性を検討してください。
	必修予定単位数			2	

キーワード①　森林

	関講義号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1	21DS008	生態学	04	2,3,4	2	
2	21AN066	森林環境論	04	2,3,4	2	
3	21DA0136	フィールド入門	03	2,3,4	2	
4	23GG3939	夫賀・自然再生フィールドワーク	03	1,2,3,4	2	
5						
6						
	このキーワード下での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）			8		

キーワード②　土砂災害

	関講義号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1	21AN060	流域環境GIS	03	2,3,4	2	
2	23GG3783	土と水	03	1,2,3,4	2	
3						
4						
5						
6						
	このキーワード下での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）			4		

キーワード③　防災

	関講義号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1	21UN060	環境と防災	04	2, 3, 4	2	
2						
3						
4						
5						
6						
	このキーワード下での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）			2		

キーワード④

	関講義号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
	このキーワード下での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）					
	修得予定 合計単位数（ピンク色のセルの合計）			16	履修が重複した場合を考えて、多めに設定した。	

分野横断学修者をピアサポートするSAマニュアルの検討

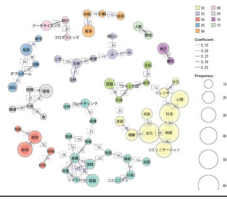
プロセス①

SA研修会（2024年4、5、8月の計3回開催）
SA全員が集まりSA活動を振り返り研鑽しあう機会

・当研修会の中で、SAによるピアサポートのノウハウが蓄積している一方で、**SA間、さらには教員とSAの間で分野横断学修を支援する様々な困難が十分に共有できていない課題**が示された。
・それを踏まえ4名のSAが中心となって、その**課題を解決に導くSAマニュアル作成**に向けて動き出した。

プロセス②

マイナー学修デザインの質的分析①
（242名分のマイナー学修デザインの類型化）



・2023年度「分野横断デザイン」受講者の「マイナー学修デザイン」の類型化を行った。まず、KH Coder（Version:3.02 official-package）を用いて、マイナー学修デザインの「マイナー名称」と「キーワード」の頻出語（右図）を抽出し、共起ネットワーク（左図）を作成した。

プロセス③

マイナー学修デザインの質的分析②
（242名分のマイナー学修デザインの類型化）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	60	課題	6	運営	3
文化	58	開発	6	栄養	3
社会	55	活性	6	化学	3
心理	42	活動	6	関する	3
コミュニケーション	36	共生	6	形成	3
経済	31	健康	6	芸術	3
環境	25	交流	6	現在	3
経営	23	貢献	6	語学	3
情報	22	心	6	広報	3
教育	21	制度	6	仕組み	3
新潟	19	地理	6	思想	3
福祉	19	都市	6	視野	3
地方	18	法	6	消費	3
データ	17	問題	6	障害	3
外国	16	倫理	6	地学	3
国際	15	ダブル	5	地球	3
実践	14	プログラミング	5	調査	3
サイエンス	13	ホーム	5	哲学	3
ジェンダー	13	リテラシー	5	伝統	3
英語	13	科学	5	能力	3
基礎	13	関わり	5	分析	3
災害	12	自然	5	平和	3
人	12	食	5	民俗	3
人間	12	食品	5	IT	2
知る	12	数学	5	SDG	2
マーケティング	11	生物	5	アート	2
メディア	11	組織	5	アジア	2
日本	11	知識	5	キャリア	2
農業	11	特許	5	コンテンツ	2
歴史	11	発展	5	システム	2
行政	10	文学	5	セキュリティ	2
福祉	10	ビジネス	4	フィールドワーク	2
関係	9	マイノリティ	4	プレゼンテーション	2
食品	9	格差	4	ユニバーサル	2
支援	9	学ぶ	4	リーダーシップ	2
新	9	観光	4	演習	2
多様	9	現状	4	温暖	2
表現	9	自己	4	食べ	2
法律	9	宗教	4	価値	2
マネジメント	8	世界	4	可能	2
デザイン	7	集	4	科目	2
学習	7	発信	4	会社	2
技術	7	防災	4	解決	2
工学	7	民法	4	回路	2
行動	7	ICT	3	海外	2
産業	7	ケア	3	観点	2
統計	7	スキル	3	韓国	2
SDGs	6	フランス	3	機械	2
コミュニティ	6	ボランティア	3	気候	2
フランス語	6	医療	3	起業	2

プロセス②の結果を参考に澤田が242名のマイナー学修デザインを分類化した。分類の結果は以下の通りである。

■マイナー学修デザインの7分類
①地域…88名
②多文化共生…41名
③心理…33名
④経営…29名
⑤コミュニケーション…19名
⑥環境…17名
⑦情報…15名

補足①「地域」内での小分類について
・地域リーダー…48名
→地域の先頭に立ち、地域を質的に変化させたり、地域の魅力を発信するもの
・法政…19名
→地域を法学や政治学の視点で見つめ、制度変革を目指すもの
・地域工学…10名
→工学的なアプローチ、例えば社会基盤や建築などで地域貢献を目指すもの
・地域教育…8名
→地域に住む子供たちの教育についてのもの
・地理学…3名
→地域学の中でも「土地」の側面に焦点をあてたもの
補足②　質的分析における間主観性の担保
澤田分類作業（１）→全員で分類検討→澤田分類作業（２）

成果と今後の課題

成果

新潟大学アカデミック・アドバイザー、NICEプログラムSAにとってのマイナー学修サポートデータベース＜MSDB（仮称）＞を構築できた

・学修創生型マイナー履修者が「マイナー学修デザイン」の科目リストを作成する際に、マイナー学修デザインの7分類を履修学生にあてはめることで効率的に支援できる可能性
具体的に…①学修創生型マイナーのキーワードを設定する際の「辞書」になる
②学修創生型マイナーの「科目リスト」を作成する際、どのような科目履修を選択していけばいいのか推奨する「リファレンス（参考情報）」になる
（メリット）マイナー学修者に先達のゴールを示すことができる
（デメリット）学生の「自律性」と「創生」する力が損なわれる恐れがある

今後の課題

◇試行版マニュアルの作成
MSDBの具体的な活用方法をマニュアルとして落とし込んでいく（令和6年度中）
◇試行版マニュアルのピアサポート実践での活用
作成したマニュアルを令和7年度授業から活用
◇未経験SAの研修での活用の検討
令和6年度10月から新規SAを14名追加雇用する。
年度内にSA研修を体系化し、その中に組み込む。

＜参考文献＞
柿原豪（2024）「連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成　メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（4）学生自ら編成するマイナー・プログラムと支援科目」『文部科学教育通信』578、18-20
日本ピア・サポート学会企画、春日井敏之・増田梨花・池雅之編著（2020）「ピアチューター・トレーニング－学生による学生の支援へ」ナカニシヤ出版
谷川裕稔・石毛弓編（2014）「ピアチューター・トレーニング－学生による学生の支援へ」ナカニシヤ出版